

## 【令和7年6月20日一般公開文書】

(無断転記使用禁ず)

令和6年度

### 自己点検評価報告書に関する学校関係者評価報告書

学校教育法第42条及び学校教育法施行規則第66条67条の規程に基づき、学校法人安見学園は、板橋富士見幼稚園の自己点検評価を公表するとともに、安見学園委員会規程に基づき、学校関係者評価委員会に諮問し、令和6年度の学校関係者評価が答申されましたので、その結果を下記の通りホームページを通じ一般公表いたします。

令和7年6月20日

報告者代表（委員会委員長）

東京成徳短期大学 教授 福山 多江子

板橋富士見幼稚園 園長 安見 克夫

## 令和 6 年度 板橋富士見幼稚園 学校関係者評価報告書

内部資料

園教育目標	<p>◎自立ある生活意識を育てるために、生活習慣を身につけ社会参加への豊かな人間観を育てる。</p> <p>◎健康で人に愛され、人に信頼される知的で聡明な人格の基礎を育てる。</p> <p>◎人前で、自信を持って何でも話せる強い精神と豊かな人間力を育てる。</p>	
※ 評価点 A (適合)・A- (やや適合)・B (努力を要する)・C (不適合)		評価
クラス担任による 自己評価	満3歳児の入園者数は年度終わりで12名となった。5月から11月まで順次誕生日翌月または(誕生日以降)に入園してきた。当初園の方で計画したカリキュラムに沿って保育を実施していったが、予想していたよりも母子分離がスムーズに進み、集団生活への適応が早かった。入園時期が違うことで、一人一人丁寧に園生活へ慣れるための援助をすることができた。したがってすぐに3歳児の保育に同化し、遊びに入り大きな混乱もなく遊びを中心とした保育が実現できた。	A-
	日誌の記録では、特に個々の姿を意識して書き、その姿に対して今後保育者がどうしていきたいかを考えて記載するようにしたことで、次週のねらいが立てやすかった。園内研修では、その日の保育の振り返りを講師の方々に聞いていただき、改善点を教えてもらった。研修で学んだことは日々の保育で活かしていくように努力したが、具体的に書面に書き留めることでさらに改善していきたいと思う。	A-
	一年を通して、日誌や月案、指導案等の書類に関しては、今後の保育に活かすことができるよう詳細に子どもの姿を記録したり、子どもの姿を振り返って実情に応じて計画したりすることを意識していった。クラスのことに関しては担任教諭同士で連携を取ることでクラス運営をしていったり、行事担当の際には担当教諭と子ども達が楽しめるような行事になるよう工夫していったりすることができた。また、今年は1年目ということもあり、指導していただきながら保育をする場面も多かったが、2年目は自らの考えをより積極的に発信していくようにしていきたい。	A-
	クラスとしては、初めての園生活に緊張の強い子どもが多く、不安定な姿があった。安心して園生活を過ごせるようになることをクラスの課題としていた。そのために教師は初めて経験する行事や活動に対して、常にポジティブな言葉を投げかけ、期待を持てるようにしていき、不安な気持ちには寄り添いながら一緒に経験していけるように取り組んでいったことで、クラスの教師や友達と一緒に大丈夫という安心感を持って過ごしていけるようになった。また、集団活動の中でも個別に興味を持てるような援助の工夫をしていったことで参加してみようとする事が出来るようになった。今後の課題としては、室内のクラス環境の構成の仕方を、より落ち着いて、じっくりと遊びに取り組みながら過ごしていけるクラス環境にしていけるように工夫していくことを心掛けていきたい。	A-
	園内研修では研修会のテーマに応じて、その時のクラスの子どもの姿を見つめ直して、それに応じた援助や対応を考えて実践していくように努めた。また、その時に疑問に感じていたことや悩みを質問することで新しい対応に気付くこともできた。	A-
	日案や指導案から、子どもの姿に合わせて遊びや生活の援助方法を自分なりに考えることができた。ねらいを立てることはできたが、日々の保育の振り返りができていない部分もあったため、子どもの姿を振り返りながら次の保育に繋げていけるようにしていきたい。	A-
	教職員同士、園内でこまめに連携をとり、保護者との連携もこまめに取ったことでより密に今の保育を子どもの姿に合わせて計画し、実践することができた。日々の振り返り(カンファレンス)をより具体的に行っていくことでより次の保育に繋げていけると感じた。	A-
	毎週、学年で子どもたちの姿を振り返りながら週日案をたて、月案では先月の子どもたちの様子を教育課程で、何が育ち切れていないかなど見直ししながら、ねらいを立てていったことで、就学までに10の姿を意識しながら計画を立てることができた。子どもたち一人一人の個性を見ていくことで、いいところを保育の中で活かし、クラスでも発信していくことで、興味関心を広げていくことができた。週日案は立てたが、日々の記入をおろそかにしてしまうことが多かったため、子どもたちの記録としてしっかりと残していきたい。	A-
新学期にクラスとして何を育てていきたいか、そのためにどのような取り組みをするかということを立てたことで毎学期に振り返りながら保育を進めることが出来た。また、それぞれの子どもの個性についても関わり方によって成長したのかを振り返ることで自分の保育を客観的に見直すことが出来た。毎学期の総括や職員会議、園内研究会などで全教員で子どもの姿を共有したり、課題について話し合う機会があったりしたことで保育に取り入れることが出来た。保育参観や行事などでは、子どもの姿を予想して立てていても予想とは異なった姿が見られていたり、ねらいが高くなってしまっていたりすることがみられたため、経験したことを活かしながら日々の保育を進めていきたい。	A-	
地域連携	地域の小学校との連携として、10月2日志村第一小学校での架け橋期の交流会に参加した。1年生担任と5歳児担任が、それぞれ子ども達に読み聞かせを行い、互いの読み聞かせ方の違いについて、教師自身が学び合うと共に、子ども達も1年生との交流の機会に小学校への期待を寄せていた。また、就学前の2月20日に、第2回目の交流会に参加し、年長児と1年生が校庭で、鬼遊びや玉入れなどを楽しみ、進級への期待を高めた。	A-
保護者アンケート	年間2回の保育参観において、保護者からのアンケートの中で、園の教育について信頼と感謝が述べられていた。「園児がそれぞれ豊かな発想でのびのびと遊びに取り組んだり、子ども主体でクラスの進行をしていたりしている姿に驚かされた」というご意見をいただいた。子どもが教師を信頼し慕っていることが伝わり、教師の細やかな対応や日々の保育への周到な準備に対しても、感謝の言葉が多く見られ、アンケートを提出された保護者の評価についてはおおむね高評価である。しかし、アンケートの回答率は6~7割程度にとどまっているため、今後アンケートフォーム等を使って気軽に回答できる環境を整えていきたい。	A-
幼児教育研究センター	外部有識者としてお願いしている幼児教育センター長と教職員が一体となって、資質向上に向けた保育指導のあり方について検討会を開催し、助言指導を受け改善や改革に取り組んできた。また、指導計画の見直しや園内研修及び研究開発等を企画し幼児の育ちに向けた取り組みについての研究や、研修後にワークショップなどを行い、学年を超えた連帯感や知識共有することができた。	A-
国際幼児教育リサーチセンター	本園はアメリカハワイ州に国際幼児教育リサーチセンターを設置し、様々な国の幼児教育情報を共有し本園の教育に取り入れている。センター長は、ハワイ大学PhDに在籍し合わせて学内教員として勤務し、教育情報を提供してきている。その関係から令和6年3月25日から教師2名をハワイ大学附属幼稚園に派遣し、園視察と共に教育・文化・社会の意見交換や、園長との実践に向けた取り組みを学び合うことができた。◆6月20日、サンフランシスコ州立大学教育学部キム教授と広島大学とのコラボによる視察団が来日し本園の取り組みについて意見交換が行われた。◆9月24日、中国からの幼児教育使節団10名が来日し日本の幼児教育の取り組みについて視察された。◆1月28日オレゴン大学から12名学生がフィールドワークで来日し、本園の幼児教育の取り組みと文化について学び合った。いずれの視察団も、本園の自然環境を取り入れた子ども達の遊びに関心を持たれ、遊びの質や教師の勤務体制などについて意見交換された。自然環境との共生教育について高い評価をされ、今後も継続的に観察したいとの声が聞かれ、令和7年度においても、視察団の受け入れを進めていく予定である。	A
コンプライアンスに基づく安全教育	本園では、4月・9月・1月に、コンプライアンスに基づく、安全点検及び実地対応訓練を実施している。交通・火災・地震・不審者・災害・事故、怪我・AED救命等の救急体制について、図上訓練及び実地訓練を実施している。令和6年度、これらに関する大きな対応はなかった。	A-
学校関係者記入コメント		評価
<p>■保護者アンケートでは、文章での回答よりアンケートフォームなど項目ごとに選択で回答できる形の方が精神的にも負担が軽くなるのでいいアイデアだと思いました。不審者・虐待・怪我など暗いニュースもある中、子どもたちが安心して生活できる様に、日々環境を整えて下さっている先生方の努力が素晴らしいと思います。園でのさまざまな経験が、子どもたちにとって大きな財産になっていると感じています。丁寧に寄り添って保育していただき、感謝しています。</p> <p>■どの先生もお忙しい中本当によく子供たちと向き合っていると思います。ただ見守るだけでなく、より一人一人が成長できるような課程を考えられ、先生方共通の認識で保育されている様で、これからも、富士見幼稚園らしい保育を期待しています。</p> <p>■一人一人に対し、丁寧な関わりを持ちながらクラス全体に目を配る保育が展開されていることがうかがえる。又、記録を十分に活用し、PDCAサイクルが行われ、保育がその都度改善され、より良い保育を常に目指している。環境を通して行う保育により、幼児の主体性を十分に考慮しながらの保育が行われている。小学校との連携により、地域連携に関してもしっかりとされている。保護者アンケートからも園への信頼が見て取れる。教職員が一体となり、資質向上に向けた保育指導のあり方についても、日々改革に取り組んでいることからA評価とした。</p> <p>■園児一人一人の個性を大切にくださり、その個性を更に引き伸ばし、他の園児にも興味関心を持たせる保育をしていて、保育生活で心の豊かな園児に育っている様に感じます。先生方の質の高い保育のおかげで、子どもたちの経験値が高まりました。</p> <p>■令和6年度より開始された満3歳保育では、教師が子ども一人一人に丁寧に関わり保護者の方にも密にコミュニケーションを取っていたことがうかがえた。また、教師がこまめにカンファレンスを重ねていくことで、教師同士が常に連携し、質の高い保育が展開されていたと感じる。</p> <p>■園庭の自然環境に教師も関心を寄せて世話をしたり遊びに取り入れたりすることで、子どもたちの興味関心がより高まり、自然との共生に向けての取り組みが進んでいると感じました。引き続き取り組みを深め子どもたちのルーツとなるような環境維持を進めてほしいと思います。</p> <p>■海外からの視察者からは、自然環境だけでなく教師の保育についても高い評価をうけており、今後も富士見幼稚園の強みとして大切にしていってほしいと思う。また架け橋期の取り組みについては、今後も小学校と連携を取りながら積極的に取り組みを広げていってほしいと感じた。</p>		A,A,A,A,A,A,A